

熱戦のインターハイ中部地区予選女子バレーボール

4月26日(土)、第73回県インターハイ予選で本校女子バレーボール部が強豪・榛原高校と対戦した。

女子バレー部はこの大会に向けて春休みも熱心に練習試合などの実戦を取り入れて努力を重ねてきた。



顧問の望月先生と品川先生も固唾をのみながら試合の展開を見守った

最後まで全力！フルセットを戦い抜いた北高

北高がどれだけスパイクを打ちこんでも、それを巧みに拾う榛原。サーブなどでもミスは少なく、たとえレシーブが乱れてもカバーしてボールをつなぎ、とても手ごわい対戦相手だった。

第1セットは19-25。途中で10点差ほどひらいてしまう局面もあり、北高は苦戦を強いられるかと思われた。

しかし、北高チームはそれぞれの選手がなにをすべきかをしっかり考えてプレーしていた。ブロックを抜かれてしまってもボールをとれていたり、攻撃のスピード感を大事にしたりと、苦しい局面にもかかわらず、ひとりひとりが活躍を見せた。

応援の声もすごかった。コートの外にいる部員たちも含めて、まさにチーム一丸となって声を出し、迫力のある試合が展開していった。大健闘の末、第2セットでは28-26という結果をおさめ、2階応援席也大いに沸いた。



むかえた第3セット。ここまで両チームの試合は一つのラリーが長く続きがちであったため、メンバーたちの持久力がどれだけ高いかが問われたようだ。北高が相手を乱すとしても、ボールは必ずといっていいほど返ってくる。自分たちのペースを保って主導権を握り続けた榛原。残念ながら、その主導権を奪い返すことに苦戦し、相手の流れを変えきれず、第3セットの結果は15-25。とても残念な、悔しい結末だった。

☆3年生のことば☆

32HR 戸田帆香(部長)

1セット目を取られている状態で2セット目にデュースまでいって勝てたのは、練習試合でデュースまでいくことが多くあったので、今回はその練習の成果が出たと思います。少し心残りがあり、悔しい気持ちです。でも、多分今までで一番雰囲気もいい試合でした。あんまり引退の実感がありません。

33HR 石田夢夏

10年間という長いバレー人生が終わってしまったけれど引退した実感がないです。3年生8人でバレーができて、とても幸せでした！

34HR 岡田真歩

最後の大会が盛り上がれて、よかったです。

34HR 久保田優蕾

みんなで楽しくバレーができてよかったです。

33HR 提坂寧久

とてもくやしかったです。しかし、仲間とともに全力で元気に戦うことができたので、満足しています。

34HR 佐藤由梨花

正直あまりまだ終わってしまったという実感がないです。

32HR 仁田こうめ

最後の大会、みんなで全力を出しきれました。みんなとバレーボールができてよかったです。

32HR 山城ゆうひ

正直、悔しい気持ちが大きいです。フルセットやって負けてしまったのが本当に悔しいです。

でも、今まで榛高と戦ってきた中で、一番良い、粘り強い試合ができたと思うので、その部分では嬉しい気持ちが大きいです。



《 2年の部員から 21HR 小林落音 》

榛原はとにかく粘り強いチームで、本当につなぎ方がうまく手ごわかったです。今までたくさんの練習を重ね、持っている力を出しきってやりきった気持ちもありましたが、一緒に戦ってきた先輩方の引退と、これから私たち2年生の代になると考えた時、「終わってしまったんだ」という気持ちが強くわいてきました。

心残りはありますが、これから新チームでがんばっていきたいと思える試合でもありました。

《 女子バレー部の試合を観戦して 》

女子バレー部の試合を初めて見ました。バレーの詳しいルールを知らなかったですが、選手たちのチームプレーが上手で驚きました。応援席はどちらのチームも歓声がとても盛り上がっていました。迫力がすごく、今回の試合を見てまた見たくなりました。